

第2次苫小牧市食育推進計画～地域を生かした食育の推進～ 令和6年度実施結果・令和7年度実施計画（案）

※課の自己評価の記載【A:順調 B:やや順調 C:やや遅れている D:遅れている】

基本目標	ライフステージ	No.	施策・事業	担当課	内 容	R6年度実施結果	課の自己評価	R7年度実施計画（案）	R7年度参加者等予定数
1 「食」を学び、健康なからだをつくり ます	妊娠期・乳幼児期	1	パパママ教室	健康支援課	初妊婦とその夫（パートナー）を対象に、妊娠期に過不足しやすい栄養素や口腔管理についての講話や、食育SATシステムを用いた食事バランスチェック体験等を行います。	年4回実施 143組参加	A：順調	初妊婦とその夫（パートナー）を対象に、妊娠期や普段の食生活の見直しができるよう、講話と食育SATシステムでの体験を行う。	定員36組 年4回実施 144組
		2	妊娠・育児等の個別支援	健康支援課	妊娠や子ども、子育てに関する悩みを抱えている妊婦・保護者からの食に関する相談（窓口・電話・メールなど）に保健師・管理栄養士が応じます。	訪問件数：2,153件	A：順調	妊産婦や乳幼児の家庭訪問において、食や栄養に関する相談に応じる。随時、窓口や電話・メールにおける相談に応じる。	2,000件 母子手帳の交付数・出生数の減少に伴い、前年度より微減の見込み。
	乳幼児期	3	こんにちは赤ちゃん訪問事業	健康支援課	生後4か月までの乳児の全戸訪問を実施し、母子の心身の状況を確認し、産後の母の食事や授乳等、食に関する相談に応じます。	訪問件数：790件	A：順調	生後4か月までの乳児の全戸訪問において、乳児とその家族に対する食事や栄養に関する相談に応じる。	715人 母子手帳の交付数・出生数の減少に伴い、前年度より微減の見込み。
		4	赤ちゃん教室	健康支援課	2か月、6～7か月、11～12か月児を持つ保護者を対象に、離乳食を含めた育児全般に関する講話と、個別相談を実施します。	年12回実施 156組参加	A：順調	地域での子育て支援事業や交流の場の拡充に伴い、2か月のみ実施とする（他の月齢はR5年度で終了）。保健師相談の拡充や母子手帳アプリを通じた知識の普及を行う。	定員20組 年12回実施 240組
		5	乳幼児健康診査	健康支援課	各健診の場面において、保健師、栄養士等による個別相談を実施します。また、フードモデルの活用やパネル展示により、保護者に対する正しい食知識の普及と、育児不安の軽減を図ることを目的に実施します。	対象者数1,040人 受診者数1,028人(98.8%) 肥満度15%以上59人(5.7%)	A：順調	各健診の場面において、保健師、栄養士等による個別相談を実施します。また、フードモデルの活用やパネル展示により、保護者に対する正しい食知識の普及と、育児不安の軽減を図ることを目的に実施します。	3歳児健診 受診率95%以上
		6	離乳食・食育講習会	こども育成課	離乳食を食べる子を持つ保護者を対象に、月齢ごとの調理法を栄養士が指導します。また、作った離乳食を親子で実食しながら個別の食事相談を行います。食育講習会では、幼児食の食事のポイントを指導し、保育園給食のおやつを試食を行います。	【離乳食講習会】 年4回(6、9、11、1月) 親子33組 68人参加 【食育講習会】 年1回(10月) 親子4組 8人参加	A：順調	【離乳食講習会】 6/25、9/19、11/27、 1/21 計4回実施予定 【食育講習会】 10/22実施予定	【離乳食講習会】 定員 10組×4回 40組 80人 【食育講習会】 定員 8組 16人
		7	出前講座・出張相談	こども育成課	保護者を対象に、朝食を通して規則正しい生活リズムと食生活を心がけることを目標とし、食事のバランスと子どもの発達に応じた適量を伝えます。	子育て支援センター食事相談 月3回(5月～2月)全65件、児童センター・保育園 子育てルーム出張相談(6～1月) 全51件、その他電話相談(4～3月) 全16件	A：順調	市民グループや諸団体等からの依頼があれば、随時実施予定。 子育て支援センター食事相談 月3回(5月～2月)、児童センター出張相談(不定期)は実施予定。	各種団体等からの依頼に応じて随時対応するほか、子育てに関する出張相談(子育て支援センター、児童センター主催とまべびタイム等)と連動して実施。
		8	保育園・認定こども園での食育、栄養指導	こども育成課	食を食べることを楽しみ、自分で食べる意欲を培うことができるように、食生活の大切さや健康と食べ物との関係について子どもたちに伝えます。	保育園(14園：公立2園、私立12園)、認定こども園(私立19園)、及び小規模保育施設(私立13園)	A：順調	認可保育施設の食育活動の内容をまとめた報告書を作成。情報を共有し、各施設の食育活動の充実を目指します。必要に応じて、幼稚園にも食育活動の情報を提供します。	保育園(14園：公立2園、私立12園)、認定こども園(私立19園)、及び小規模保育施設(私立14園)
		9	食育だより	こども育成課	食についての啓発活動として、保育園・認定こども園に通う児の保護者や市民に向けて情報発信をします。	年4回発行 公立保育園に配布し、苫小牧市のホームページにも掲載	A：順調	年4回発行 保護者(公立園対象)へアプリで配信、苫小牧市のホームページにも掲載予定。	前年度の取組みを継続 ・年4回発行(5、8、11、1月) ・公立保育園(2園で約150世帯) ・市ホームページへの掲載
		10	苫小牧市立保育園食育計画	こども育成課	「食を営む力を育てるために」を食育目標に掲げ、食を通じた子どもの健全育成を目指します。これを基にして各認可保育園では独自の年間食育計画を作成し実施します。	各認可保育園等において独自の年間食育計画を作成し実施。	A：順調	今年度も継続して本計画を基に各認可保育園等において独自の年間計画を作成し実施する。	保育園(14園：公立2園、私立12園)、認定こども園(私立19園)、及び小規模保育施設(私立14園)

基本目標	ライフステージ	No.	施策・事業	担当課	内容	R6年度実施結果	課の自己評価	R7年度実施計画(案)	R7年度参加者等予定数
1 「食」を学び、健康なからだをつくれます	学童期	11	食に関する指導	学校給食共同調理場	(小中学生を対象として)健康で豊かな人間性を育むため、栄養教諭が栄養や食事の摂り方等について、計画的に指導します。	令和6年7月1日～11月6日に市内小学校で223回の授業を実施 【指導内容】 「給食ができるまでを知ろう」 「食べ物の3つの動きを知ろう」 「パラスのよい朝ごはんを食べよう」 「夢を叶えるための食生活～将来への基礎づくり～」	A: 順調	令和7年6月30日～11月20日に市内小中学校で80回以上の授業を実施予定 【指導内容】 「給食ができるまでを知ろう」 「食べ物の3つの動きを知ろう」 「パラスのよい朝ごはんを食べよう」 「夢を叶えるための食生活～将来への基礎づくり～」	各小中学校の児童
		12	給食試食会	学校給食共同調理場	保護者への試食会を通してアンケート調査を実施し、調査の内容は献立作成の参考とします。	令和6年8月30日～2月29日に17校81回1520人に試食会を実施し、アンケート調査を実施(回答者790人)	A: 順調	試食会時にアンケート調査を実施し、結果について献立作成の参考とする	各小中学校の保護者
		13	栄養だより	学校給食共同調理場	児童生徒の実態、栄養面や食生活を取り巻く環境等の情報を家庭や学校に提供します。	6月 ・試食会アンケート結果 ・食育月間に係る苫小牧市内での取り組みについて 11月 ・肥満・痩せ調査結果 ・給食作文コンクール・給食に関する標語の入賞作品掲載 ・お米のコラム 2月 ・リクエスト給食アンケート結果 ・牛乳のコラム (年3回発行)	A: 順調	年3回発行(内容未定)	各小中学校の児童生徒・保護者・教職員
		14	小中学校食育計画	指導室	市内各小中学校では、各校の「食に関する指導の全体計画」に基づき、食育の推進に取り組みます。	市内全小中学校(小学校22校、中学校14校、義務教育学校1校)において、各校の「食に関する指導の全体計画」に基づき実施	A: 順調	市内全小中学校(小学校22校、中学校14校、義務教育学校1校)において、各校の「食に関する指導の全体計画」に基づき実施	市内全小中学校の児童生徒が対象
	壮年期 ～ 老年期	15	特定健康診査、特定保健指導	保険年金課	30歳以上の国保加入者を対象に、生活習慣病の早期発見や重症化予防を目的とし、特定健康診査を実施します。検査の結果、メタボリックシンドロームに該当する方に対して、食生活等の改善を促す特定保健指導を行います。	特定健康診査受診率 32.3% (R7.4.26時点) 特定保健指導実施率 11.4% (R7.4.26時点) プシ特定健診受診率 6.3% (R7.1月時点) ※法定報告時 (R7.10月中旬頃)確定	B: やや 順調	30歳以上の国保加入者を対象に、特定健康診査(身体計測、血圧測定、肝機能検査など)を実施し、生活習慣病の早期発見や重症化予防を図ります。また、特定健康診査の結果、メタボリックシンドロームに該当する方に対し、生活習慣の改善を目的とした特定保健指導を実施します。さらに、普及啓発にあたっては、電話による受診勧奨などに取り組み、受診率の向上を図ります。	特定健康診査受診率: 35% 特定保健指導実施率: 30% プシ特定健診受診者数: 250人 ※目標値
		16	重症化予防事業	保険年金課	特定健康診査の結果、高血圧や高血糖、脂質異常症などにより、生活習慣病の重症化のおそれがある方に対して、食生活等の改善を促す保健指導を行います。	(保険年金課) 受診勧奨数 18人 勧奨後受診率 72.2% ※R7年4月現在 保健指導数 1人	B: やや 順調	(保険年金課) ハスカッププラザに業務委託し、苫小牧糖尿病性腎症重症化予防プログラムに基づき糖尿病未受診者への受診勧奨及びかかりつけ医と連携した保健指導実施します。	(保険年金課) 受診勧奨数 30人 勧奨後受診率 80.0% 保健指導数 3人
	老年期	17	介護予防講演会	介護福祉課	介護予防としての基本的な知識を普及啓発することを目的に、食生活と健康についての講座を行います。	2回 79名	A: 順調	介護予防としての基本的な知識を普及啓発することを目的に、食生活と口の健康等についての講座を行う。	開催回数 2回 参加人数 50名
		18	地域リハビリテーション活動支援事業(旧:介護予防講師派遣事業)	介護福祉課	高齢者が元気に長生きするための食生活や口の健康についての講話を行います。	1回 6名	B: やや 順調	高齢者が元気に長生きするための食生活や口の健康について、専門職が地域の支援者に対し技術的助言を行い、介護予防の取組の機能強化を図る。	開催回数 3回 参加人数 40名
		19	在宅高齢者給食サービス	介護福祉課	在宅の高齢者が健康で自立した生活ができるよう、食の自立及び栄養改善の観点からアセスメントを行ったうえで、定期的に居宅を訪問し原則として夕食を宅配します。	配食人数 2,584人 配食数 56,367食	B: やや 順調	在宅の高齢者が健康で自立した生活ができるよう、食の自立及び栄養改善の観点からアセスメントを行ったうえで、定期的に居宅を訪問し原則として夕食を宅配する。	72,500食

基本目標	ライフステージ	No.	施策・事業	担当課	内容	R6年度実施結果	課の自己評価	R7年度実施計画(案)	R7年度参加者等予定数
1 「食」を学び、健康なからだをつくりたい	全期対象	20	健考・健幸DAY	健康支援課	ポピュレーションアプローチを実施することにより、健康意識の向上及び生活習慣の改善の意識づけを目的に年に1度開催します。	「スポーツフェスティバル2024」イベント内のスポーツEXPOとしてブース出展した。肥満をテーマに子ども、子育て世代を対象とし、こどもも楽しく学べる「生野菜の重さ当てゲーム」をはじめ3つの体験ブースを設置した。 ・実人数238人、延べ人数437人参加し、生活習慣改善の意識づけの機会となった。	A：順調	・スポーツフェスティバルイベント内スポーツEXPOとしてブース出展は継続実施。 ・健考・健幸DAY2025として、9/23(祝)にイオンモール苫小牧店で市民の健康意識向上を目的とした体験型健康イベントを開催予定。「うんちラボ」をはじめとした10程度のブースを設置し、体験型コンテンツや健康チェックの機会を提供する。	スポーツフェスティバル：1回実人数100名予定 イオンモール苫小牧店健考・健幸DAY：1回 延べ1,000人
		21	食育人材バンク	健康支援課	食に関する知識や経験を有する方を講師として登録し、食育活動を希望する団体へ紹介します。また、登録者の人材育成を行います。	広報・リーフレットでの周知 講師登録者：11件(個人6件、団体5件) 活動件数：31件	A：順調	・講師登録と、食育活動を希望する団体へ紹介を継続。 ・登録者の人材育成を行う。 ・連携協定会社の協力のもと、バジチェックを活用する。	各種団体からの依頼に応じて実施する。
		22	出前講座	健康支援課	健康全般、栄養、運動、メンタルヘルス等のテーマで各団体向けに健康への関心・意欲向上を目的に適宜講座を実施します。	(成人) ・出前講座 実施：16回 参加者：307人 (母子) ・出前講座 3回(17人) ・出前講座以外7回(201人)	A：順調	・母子・成人の計10講座について、随時依頼を受け実施する。 ・依頼団体の希望に沿った内容を提供する。	各種団体からの依頼に応じて実施する。
		23	健康講座	協働・男女平等参画室	食に関する講話と実習を行うことにより、知識と技術の向上を図ります。 健康志向の薬膳や「豆」を使った料理、季節、イベントにまつわる料理、親子で作る料理を通して生活の中にある食を体験します。さらに、地元の新鮮な魚を捌き、調理することで食の重要性和苫小牧の漁業の誇りを学びます。 また、様々なセクシャリティの方と一緒に楽しくパンを作って食べるイベントでは、食を通して多様性について考える機会とします。	【前期講座】 ・朝のパンづくり・夜のパンづくり(2コース)・薬膳料理(午前・夜間)・親子料理教室(2コース)・教えてリリーさん(ケンタッキー州でよく飲まれている「ミントジュレ」を作った)・豆のある食卓・苫小牧港水揚げの魚を料理する～旬のカレイをさばこう～ 【後期講座】 ・秋のお菓子とミルクティーの淹れ方(午前、夜間)・朝のパンづくり・夜のパンづくり(2コース)・手作りのクリスマスケーキ(午前、夜間)・豆のある食卓 【共催事業】 ・苫小牧LGBTの広場ほるとスピンオフ「多様性を輝かせるパン作り」	B：やや順調	【前期講座】 アイシングクッキー(午前、夜間)・朝のパンづくり・夜のパン作り(2コース)・豆のある食卓(午前、夜間)・親子でおいしいパンを作ろう～おじいちゃん、おばあちゃんも大歓迎!～(土曜日コース・日曜日コース) 【後期講座】 ・朝のパンづくり・夜のパンづくり(2コース)・秋のスイーツ&紅茶・まめのある食卓(午前、夜間)・手作りクリスマスケーキ(午前、夜間)・王さんの中国の家庭料理	410人
		24	防災講座	危機管理室	災害時に備えた食育の推進を図るため、各家庭環境に応じた備蓄方法(ローリングストック)の紹介や食料品の備蓄の重要性について普及啓発を行います。	ホームセンターで買える備蓄品だけでなく、100円ショップでも買える身近な防災用品も積極的に紹介し、備えを身近なものに捉えてもらえるよう啓発した	A：順調	各家庭の自助意識向上のため、防災講座で備蓄食のローリングストック方法を紹介し、従来の乾パンのようなものだけでなく、普段買っているカップ麺等も備蓄食になるということを伝えていく	未定
2 「食」を楽しむ、感謝の気持ちを育みます	乳幼児期	25	出前講座	ゼロごみ推進課	環境戦隊053ファイブが幼稚園や保育園を訪問し、ごみの減量を目的に、食べ物の大切さを伝え、食品ロス削減の意識向上に努めます。	市内5園を対象に、ゼロカーボンとゼロごみに関する内容を寸劇にした出前講座を実施した。	A：順調	・SNSによる情報発信を行い、幅広い世代への周知を図る。 ・食品ロス削減の推進に向け、幼稚園や保育園を対象とする啓発講座を実施する。	出前講座(随時受付)
		26	出前講座	ゼロごみ推進課	希望のあった小学校を対象に、「使いきり」「食べきり」「水きり」の生ごみ3きり運動について、出前講座を行います(オンライン講座含む)。	小学校を対象に出前講座(計7回)を行った。	B：やや順調	・SNSによる情報発信を行い、幅広い世代への周知を図る。 ・食品ロス削減の推進に向け、小学校を対象とする啓発講座を実施する。	出前講座(随時受付)
	学童期	27	郷土食	学校給食共同調理場	全国学校給食週間・食育月間に合わせ、「市の貝」ホッキを使った献立やカレーラーメンを郷土の味として提供します。	令和6年6月に「市の貝」ホッキを使用した「ほっきカレー」、1月に「カレーラーメン」を郷土の味として提供。	A：順調	食育月間である6月にほっきカレー、全国学校給食週間の1月にカレーラーメンを実施予定	各小中学校の児童生徒・教職員
		28	献立内容の充実	学校給食共同調理場	学校給食による旬の食材の使用、中学校3年生に対するアンケートによるメニュー、行事食等、工夫を盛り込み楽しみのある献立を目指します。	中学校3年生に対するアンケートメニュー(味噌ラーメン、チキンカレー等)、行事食(クリスマスお楽しみ等)、姉妹都市(東京都八王子市、栃木県日光市)に関する献立等を提供	A：順調	旬の食材の使用、行事食等、工夫を盛り込み楽しみのある献立を提供する。	各小中学校の児童生徒・教職員

基本目標	ライフステージ	No.	施策・事業	担当課	内 容	R6年度実施結果	課の自己評価	R7年度実施計画(案)	R7年度参加者等予定数
2 「食」 を楽しむ、感謝の気持ちを育みます	学童期 ～ 老年期	29	企画展及び各種教育普及事業	美術博物館	ウトナイ湖や樽前山などの自然環境への理解を深めるよう、自然がもたらす恵みと苫小牧の食についての関連について伝えます。また、昔から今に続く食生活の歴史について伝えます。	市内小学生を対象とした郷土学習の石臼をひく体験を通して、昔の食生活を伝えました。(参加者1,396名)	A: 順調	市内小学生を対象とした郷土学習の石臼をひく体験を通して、昔の食生活を伝えました。	約1,400人
		30	生活体験教室	勇武津資料館	五穀米でおにぎりを作ったり、そば・大豆を石臼で引く体験や、そばがき作り、また、昔ながらの保存方法である燻製作りの体験などを通して食生活の伝導を行います。	生活体験教室「石臼をひいてそばがきをつくろう」参加者9名：生活体験教室「くん製づくりに挑戦」参加者11名	B: やや順調	生活体験教室「せんべい焼きを体験しよう」：生活体験教室「石臼をひいてそばがきを：生活体験教室「石臼をひいてそばがきをつくろう」	40名
		31	エコキック教室	ゼロカーボン推進室	地球温暖化防止についてのミニ講座や、環境への負荷を減らす省エネ料理(余熱を利用した保温調理、食材を余すことなく使い切りする工夫など)を子どもと一緒に実践していく中で、家庭でもできる身近なエコ活動について学ぶ。	令和7年2月15日 10:30～13:30 苫小牧市民活動センター5階 料理実習室で開催 【参加者】 市民20名(こども12名、大人8名)	A: 順調	令和7年9月 1回開催予定	苫小牧市民の親子(小学生以上) 計20名
		32	アイヌ伝統料理講習会	総合福祉課	アイヌ民族の食文化の伝承と啓発を目的に、毎年3月に実施します。	令和7年3月に、アイヌ料理講習会を実施した。定員10名のところ定員以上の応募があり、アイヌの食文化の伝承と啓発に努めた。	A: 順調	令和6年度同様、アイヌの食文化の伝承と啓発を目的に、アイヌ料理講習会を実施予定。	10人
	壮年期 ～ 老年期	33	グリーンツーリズム展開事業	農業水産振興課	農水産物に興味を示してもらうため、農水産業者と都市住民の交流を図ることを目的に実施します。	樽前地域の農業者と樽前小学校の児童親子及び卒業生等がソーセージ作りを通して交流を図った。	A: 順調	農水産業者と都市住民の交流イベントに補助金を交付する。	未定
		34	2510(ニコト)運動	ゼロごみ推進課	おいしく残さず食べきるための普及啓発として宴会五箇条を掲げ、開始25分、終了10分前は席を立たずにしっかり食べる「2510(ニコト)運動」を広めます。	更なる食品ロス削減の推進を図るため、「2510(ニコト)運動」推奨店認定制度を継続し、普及啓発活動を行った。 (R6時点で計27店舗加入。)	B: やや順調	・更なる食品ロス削減の推進を図るため、「2510(ニコト)運動」推奨店認定制度を継続する。	市内飲食店へのPRを図り、協力を得ながら拡充する。
	全期対象	35	ふるさと農園	農業水産振興課	市民が自身で行う野菜等の栽培を通じて、収穫の喜びを味わうことにより、健康的でゆとりのある生活の実現を図ります。	沼ノ端農園 87/88区画 錦岡農園 74/96区画	A: 順調	沼ノ端農園 88/88区画 錦岡農園 96/96区画	沼ノ端農園 88/88区画 錦岡農園 96/96区画
		36	おいしい水「とまチョップ水」	上下水道部総務経営課	安全・安心でおいしい苫小牧の水道水をPRしていきます。	①販売事業者(85か所) 75,840本 ②総務経営課直販 5,328本 ③イベント販売(2回) 1,702本 ④道外販売(3か所) 1,920本 ⑤協賛事業者(事業者数) 15,936本(78事業者) ⑥事業PR 1,769本 合計 102,495本(過去最多)	A: 順調	①販売事業者(87か所) 77,616本 ②総務経営課直販 9,238本 ③イベント販売(2回) 2,112本 ④道外販売(有楽町) 2,160本 ⑤協賛事業者(事業者数) 16,080本(80事業者) ⑥事業PR 2,794本 合計 110,000本(過去最多)	イベント集客予定 ①港まつり 2,000名 ②10周年キャンペーン 350名 ③広報関係キャンペーン 150名 合計 2,500名
		37	自然観察バスツアー	環境生活課	勇払原野に自生するハスカップの摘み取り・試食体験付自然観察バスツアー	ハスカップの摘み取り・試食体験付自然観察バスツアー	B: やや順調	勇払原野に自生するハスカップの摘み取り・試食体験付自然観察バスツアー	30人
		38	東胆振物産まつり	観光振興課	1市4町の特産品である農水産加工品や農産物等を集め、地域の特色を生かし、実演販売や試飲・試食を交えながら展示即売を行い、東胆振広域圏の連携を強化し地域産業の振興を図ります。	・開催日 令和6年10月25日(金)～10月27日(日) ・会場 イオンモール苫小牧1階催事場 ・内容 1市4町の13店が出店	A: 順調	東胆振物産まつりを通じて、各地域の特産品などの展示・販売、観光宣伝などを強調して実施し、東胆振広域圏の連携強化と地域産業の振興を図る。 今年度もイオンモール苫小牧で開催予定。 ・開催予定日 令和7年10月24日(金)～26日(日)	10,100人(R6年度実績)
		39	苫小牧市特産品認定(とまチョップ)	観光振興課	本市の特産品のパンフレットを作成し、市民のほか道外等にも広くPRします。	・特産品認定業者30事業者を認定 ・パンフレット14,000部作成 ・パンフレットは、特産認定事業者をはじめ観光案内所や道の駅など68か所へ配布・設置依頼	A: 順調	・特産品認定審査会の開催 ・パンフレットの作成 ・パンフレットの配置依頼	14,000部
	40	樽前交流センター	農業水産振興課	農村と都市との交流により地区活性化を図る中核施設として、体験農園を行います(指定管理：樽前町内会)。	22区画	A: 順調	22区画	22区画	

基本目標	ライフステージ	No.	施策・事業	担当課	内容	R6年度実施結果	課の自己評価	R7年度実施計画(案)	R7年度参加者等予定数
2 「食」を楽しむ、感謝の気持ちを育みます	全期対象	41	地域資源活性化推進事業	農業水産振興課	地元農畜水産物等の消費拡大を目的として、イベント等に出店した場合に補助金を交付します。	苫小牧商工会議所の食品飲食業部会員による交流展示会が開催され、地産地消の推進につながった。	A：順調	苫小牧商工会議所による地産地消を推進するイベントに対し補助金を交付する。	出店：19事業者50名 来場者：約100名 (R6実績)
		42	産直マップの作成	農業水産振興課	樽前地区の農家が手がけた農産物の直売所を紹介します。	3,000枚	A：順調	3,000枚	3,000枚
		43	みんなの消費生活展	市民生活課	その時代に即応した豊かな暮らしを創造していく意識の高揚を目的とし、暮らしに役立つ知識や情報を提供します。また、地域で作られた食品の販売も行います。	開催日：令和6年10月19日(土) 会場：市民活動センター 来場者：650人 内容：苫小牧消費者協会による食品ロスアンケート、フードドライブ、厚真産さくら米・おふくろみそ販売等	B：やや順調	開催日 令和7年10月11日(土) 会場：市民活動センター 内容：未定	
		44	生ごみ3きり運動	ゼロごみ推進課	「使いきり」「食べきり」「水きり」の3つの「きり」を合言葉に、生ごみの減量啓発を行います。	広報とまこまいごみ収集カレンダーへの掲載のほか、出前講座(計19回)により啓発を行った。また、次世代を担う子供への周知啓発を図るため、小学校4年生と中学校1年生向けの副読本を作成し配布した。	A：順調	・各種出前講座での啓発 ・SNSによる情報発信を行い、幅広い世代への周知を図る。 ・商品を購入する際に、商品棚の手前から順に購入していただき食品廃棄物の削減を推進するとともに、消費者へ「もったいない」という意識啓発を図るための取り組みを行う。	出前講座(随時受付)
		45	情報媒体等による消費者への啓発	市民生活課	「くらしのニュース」の発行やパネル展等で、食品ロスをテーマとした啓発を行います。	「くらしのニュース」 ・毎月1回、2,000部発行 ・10月号で食品ロス啓発 ・3か月ごとに健康支援課の食育&健康コーナー掲載「巡回パネル展」 ・令和6年10月～令和7年2月、高校・専門学校10校において実施 ・食品ロスに関するパネルを含む展示	B：やや順調	「くらしのニュース」 ・毎月1回、2,000部発行 「巡回パネル展」 ・令和7年10月以降実施予定	
		46	フードドライブ事業	ゼロごみ推進課	ごみ減量の一環として、様々な理由で処分されてしまう食品を家庭から集め、必要な方々に届ける運動「フードドライブ」を実施します。	市内コミセン4か所でフードドライブ事業を行い、集められた食品(計440点・120Kg)をフードバンクとまこまいに寄贈した。	A：順調	・関係機関と連携し、「フードドライブ」事業を実施し、集めた食品を必要とする方々へ届ける。 ・SNSによる情報発信を行い、幅広く周知を図る。	フードドライブ・リユース活動(随時受付)
		47	SNSでの動画配信	ゼロごみ推進課	ごみ減量の一環として、YouTubeやInstagramなどのSNSにより、食品ロスに関する情報を配信します。	環境戦隊ゼロごみファイブのYouTubeチャンネルの作成や、InstagramなどのSNSを通じて、ごみに関する様々な情報を発信・周知し、YouTubeチャンネルの登録者数は176人、累計視聴回数は10,986回、Instagramのフォロワー数671人となった。(令和7年3月集計日時点)	A：順調	・引き続きSNSによる情報発信を行い、幅広い世代への周知を図る。	さらなるSNSの情報配信等により周知を拡充する。
3 「食」にふれあい、苫小牧の味を伝えます	妊娠期・乳幼児期	48	とまっこLINE	健康支援課	妊娠期から子育て期において、妊娠月数や子どもの年齢に応じた食事のアドバイス等の子育て支援情報を、LINEでお知らせします。	R5.11でLINE配信は終了 R5.10～母子手帳アプリ稼働 R7.3.31現在の累計ユーザー数：2,014人	A：順調	母子手帳アプリ「とまっこアプリ」で、妊娠や子育てに関する事業の紹介や、情報配信を行う。	累計ユーザー数：2,600人
	乳幼児期	49	親子ふれあい遊び	こども育成課	食への関心を持ち、食べる楽しさを味わってもらうことを目的とし、親子で簡単に作ることができる手作りおやつ調理や、旬の食材(焼き芋・焼きとうもろこし)の試食を行います。	4回 4月24日「セサミトースト作り」 15世帯 32人参加 6月7日「いももち作り」 14世帯 29人 9月11日「青空広場(焼き芋・焼きとうもろこし)」 18世帯 44人 2月7日「ハロウィンパンケーキ作り」 16世帯 33人	A：順調	年4回開催予定 4月25日「セサミトースト作り」 5月15日「いももち作り」 9月5日「青空広場(焼き芋)」 2月6日「ハロウィンパンケーキ作り」	「セサミトースト作り」 「いももち作り」 「ハロウィンパンケーキ作り」 定員 各16組 32人 「青空広場(焼き芋)」 定員 20組 40人

基本目標	ライフステージ	No.	施策・事業	担当課	内容	R6年度実施結果	課の自己評価	R7年度実施計画(案)	R7年度参加者等予定数
3 「食」にふれあい、 苦小牧の味を伝えま す	学童期	50	児童センター料理教室	青少年課	友達と一緒に料理を作る楽しさを味わい、会食を通して交流を深めることを目的に実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ・料理教室は実施なし ・大成児童センターの「未来キッチン」という事業に王子病院の方が来館し、センターで良い食材をおなかいっぱい食べさせたいというコンセプトで年7回実施 ・フードロスの観点で残さない食べ方を児童に伝え、食事を提供している 	B：やや順調	・北栄児童センターで1回実施	・北栄児童センターで20名参加予定
		51	児童センターおべんとう作り	青少年課	異年齢の子ども達と会食することにより、食事のマナーや食生活の大切さを学びます。	<ul style="list-style-type: none"> ・7館(住吉、日新、沼ノ端、あさひ、錦岡、大成、北栄)で624回実施 ・11,724人参加 	A：順調	・7館(住吉、日新、沼ノ端、あさひ、錦岡、大成、北栄)で609回実施	・7館(住吉、日新、沼ノ端、あさひ、錦岡、大成、北栄)で10,962人参加予定
		52	食物アレルギー対応	学校給食共同調理場	給食は、「食の大切さ」「食事の楽しさ」を理解するための教材としての役割を担っていることから、アレルギーのある児童生徒も同じように安心して食べられるよう対応食を提供します。	令和6年3月時点での提供数 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 16校32名 ・中学校 1校1名 	A：順調	卵・乳の代替食を市内の全小中学校に提供する。	令和7年4月時点での提供数 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 16校32名 ・中学校 2校2名
		53	食育・科学教室	科学センター	食品メーカーから講師を招き、テーマに沿って小中学生に向けた教室を行うことで、食への興味と知識を広げます。	2回実施(R6年11月16日(土)) <ul style="list-style-type: none"> ①10:00~11:00 ②13:00~14:00 参加者 <ul style="list-style-type: none"> ①6組16名 ②9組25名 	A：順調	R7年11月15日(土) <ul style="list-style-type: none"> ①10:00~11:00 ②13:00~14:00 対象 小中学生 内容 発見!チョコレートのひみつ	2回実施 参加者 各12組
	壮年期 ~ 老年期	54	オンライン健康教室(ハスカッププラザ)	健康支援課	市民のための健康づくり全般をサポートすることを目的に、オンライン栄養教室等の各種健康教室を開催します(指定管理者:ハスカッププラザ)。	対面で実施。(令和4年途中~) <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教室 参加者:179人 ・健康・栄養相談 相談者:13人 	A：順調	・6つのテーマで全11回実施予定。 ・会場を保健センターのほか、ココトマでも実施する。	・栄養教室 参加者:200人 ・健康・栄養相談 相談者:10人
	老年期	55	町内会等での推進	総合福祉課	地域住民の閉じこもり防止や仲間づくり等を目的に、身近な場所で住民が定期的に集まり交流する地域の憩いの場を作り、介護予防や生きがいづくりへつなげます。	地域が運営するサロン開設・継続をサポートし、地域住民の社会参加や見守り活動、安否確認、情報共有の推進を図った。 令和6年度登録数 91カ所 開催数 延べ 990回 参加人数 延べ 15,680名	A：順調	地域住民の閉じこもり防止や、仲間づくり等を目的に、身近な場所で住民が定期的に集まり交流する地域の憩いの場として「ふれあいサロン」活動を支援し、介護予防や生きがいづくりへつなげる。(苦小牧市社会福祉協議会)	未定
	全期対象	56	食育月間(6月)	健康支援課	食育月間である6月に、関係機関と協力しながら食育の普及啓発を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所1階ロビーでパネル、中央図書館・東開文化交流サロンで食にまつわる書籍の展示を実施した。うち2日間市役所1階ロビーでヘジチェック体験を行い163名参加した。 ・中央図書館で初めて食育ワークショップを開催し、14名参加した。 ・市職員向けにSATシステムを利用した食バランスチェックと講話の研修(健康増進セミナー)を2回(午前・午後)実施した。 【食育月間以外の取組】 ・食生活改善普及運動月間にコンビニエンスストアへPOPを設置した。 ・毎月健診等で来所することと保護者向けに、食育コーナーを設置した。 ・児童センターに食育のポスターを掲示した。 ・くらしのニュースにレシピやコラムを掲載。 	A：順調	・6月に市役所1階ロビーおよび中央図書館にて、給食をテーマにパネル展や食器展示、給食レシピ配付等を実施予定。 ・市職員向けの健康セミナーを開催予定。 ・他食育月間以外の取組みは令和6年度と同様に実施予定。	前年度と同様の見込み
		57	食育の日(毎月19日)	健康支援課	毎月19日に、とまチョップのSNSを通じて、食育にまつわるちょっとした情報を発信します。	毎月19日(1月除く)に健康支援課インスタグラムにて食育にまつわる情報(野菜が摂れるレシピやコラム)を発信した。	A：順調	・毎月19日に、旬のメニューの紹介のほか、学校給食の紹介等を発信予定。	毎月情報を発信する